

並びに中緯度との相互作用の研究

- (2) 気候システムの中でのモンスーンの役割の研究
- (3) 熱塩循環（海洋大循環）の変動の研究
- (4) 人為的温室効果気体の増加に対する気候システムの応答の研究

を持って研究計画を走らせる、という決定を行った。

このため、CLIVAR 全体の目標としては、例えば気候システムの季節変化から数百年、数千年に至るあらゆる時間スケールでの変動、及び予測可能性に関する理解などの包括的な目標を挙げる必要があるとしている。

この決定を受けて、9月に英国で行われる CLIVAR-SSG3 で議論することになるが、おそらく紛糾することになる。理想論としては気候システムの変動は全てリンクしており、分類して考えることは不可能であるが、現実的にはある程度の時間スケールの分類を考

えておくのが妥当のように思われる。その理由は、多くの人にとっては処理出来る情報量に限りがあり、部分しか考えることが出来ない、という人間側の制限である。事実、GEWEX と CLIVAR の時間スケールの分類は認めているわけで、その程度には ENSO の時間スケールと熱塩循環の時間スケールは離れてはいる、と思う。勿論、両者の中間の時間スケールもあるわけで、それを研究したければそのように問題を決定すれば良い。例えば、モンスーンの年々変動などは fast time scale と slow time scale の中間の現象であり、GEWEX/CLIVAR の問題として日本は提案している。

JSC は、この決定を受けて NEG も一つとすると云っているが、実行上は panel 1 と panel 2 を作って行う、という様になるという。これらを称して「世紀末の混乱」というのであろう。

第41回風に関するシンポジウム講演募集

共 催：土木学会、日本海洋学会、日本風工学会、
日本気象学会、日本建築学会、日本航空宇宙学会（幹事学会）、日本地震学会、日本地理学会、日本農業気象学会、日本流体力学学会、日本林学会（五十音順）

開 催 日：平成6年12月19日（月）

会 場：東京大学山上会館大会議室
〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学構内
電話 03-3812-2111 内線2320
電話直通 03-3818-3008

開催要領：1 講演15分程度、前刷集は作成致しません
申込方法：題目、講演者氏名（連名の場合は講演者に

○印をつける）、所属学会、勤務先（電話）、100字程度の要旨、スライド・OHP の使用別等を記入

申 込 先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学工学部航空宇宙工学科

久保田弘敏

（日本航空宇宙学会「風に関するシンポジウム」係）

電話 (03) 3812-2111 内線6574

FAX (03) 3818-7493

申込締切：平成6年9月16日（金）

懇 親 会：講演終了後開催の予定（山上会館内）